

2026年度 町田市立鶴川中学校 年間指導計画及び観点別評価規準

第1学年 教科:技術科

教科書:東京書籍

週時数1 担当者:中居

学期	月	単元	時数	観点別評価規準			
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	
1	4	・3年間の学習の見通し ・評価規準について ・技術科教科の特性	1				
		木材・金属・プラスチックの特性		材料の特徴と使用方法を理解している。	特性を生かした利用方法が考えられ、判断できている。	主体的に思考しプリント学習に励む姿、記入しようとしている。	
	5	木材はどのような材料	2	針葉樹と広葉樹の違いが分かり、木材の名称(心材・辺材・年輪・繊維方向と強度の違い)を理解している。	ICTを活用し、針葉樹と広葉樹の違い、繊維方向による強度の違いが判断できる。		
		金属はどんな材料		木質材料の違いを理解し身につけている。	各木質材料の特性を考慮することができ、理解できている。	意欲的にプリント学習に取り組もうとしている。	
		プラスチックはどんな材料	金属の特性を学び知識として身につけている。				
	6	製図:制作に必要な図の書き方を知り、書き表すことができる。 ①等角図の書き方について	3	制作に必要な図の書き方を読み取り、基本通りの書き方で製図を表現している。	垂直線・水平線・30度の斜線が正確に引くことができている。 立方体から切り取る部分のイメージが図で表すことができる。	作図作業に対して工具を適切に使用し、工夫した作図作業をしようとしている。	
				誰が見てもわかる、適切な向きからの作図が作成できている。	下書き線・外形線の区別をつけて表現している。	難易度にかかわらず、意欲的に作図に取り組もうとしている。	
				まとめとして授業内テストの実施(自分の理解力に応じた作図を判断し、丁寧な取り組みができる。)			
	2	7	②第三角法による正投影図1 (立法体→第三角法)	3	制作に必要な図の書き方を読み取り、基本通りの書き方で製図を書く力が身につけている。		粘り強く課題に取り組む姿勢が見られ、書き上げようとしている。
					かくれ線・外形線・下書きの線の違いを理解し使っている。	かくれ線・外形線・下書きの線を適切に表現している。	右側面・平面図から正面図を想像し書き表す工夫がみられる。
					正面図・右側面図・平面図の整合性を理解している。	正面にふさわしい面を正面図にして書き表すことができている。	難度の高い作図にも粘り強く取り組もうとしている。
		9	②第三角法による正投影図2 (第三角法→等角図)	3	まとめとして授業内テストの実施(自分の理解力に応じた作図を判断し、丁寧な取り組みができる。)		
ICTを活用し、第三角法による正投影図の特徴を理解することができる。					第三角法を見て立方体がイメージでき、書き表すことができている。	課題に意欲的に取り組むことができる。	
まとめとして授業内テストの実施(自分の理解力に応じた作図を判断し、丁寧な取り組みができる。)							
10	第三角法で表された木製品を等角図で書き表すことができる。	3	適切な線の太さ濃さで立方体を書きあらわしている。 寸法線・寸法補助線・中心線・寸法値の記入の仕方等の理解をしている。	線の区別をつけて書き表すことができ、寸法線・寸法補助線・中心線・寸法値を書き表すことができている。	作品の表現に対して丁寧に粘り強い取り組みをしようとしている。		
			11	3	製図の見方、木取り図・部品図の見方を理解している。 寸法値の読み方、製図記号の見方を理解している。	部品表より部品の寸法値・数量を読み取り、判断している。	
					12	3	工具の名称と使用方法を理解している。 木取りの適切なやり方・手順、けがきの適切なやり方と不適切なやり方の区別・説明ができている。
3	1	加工・切断 切断線に沿って切断する	6	両刃のこぎりの名称・働き・切断のやり方を理解している。 木材の繊維方向・材質によって切断のやり方を変えること理解している。 切断の手順が説明でき実践している。ICTを活用し切断の仕方を理解する。			両刃のこぎりの刃の形状・あさりの役割・切断の仕組みを観察・発表できる。 木材を切断するのこぎりと金属を切断するのこぎりの違い、形状の違いを理解している。
				2	寸法・角度・切断面の確認・修正	1	電動糸鋸盤の特性と両刃のこぎりの特性の違いを理解している。
	組み立てを考えて、寸法確認が行えている。	長さを揃えるためのやすりがけでき、正確に長さの確認を行っている。	安全に留意したやすりがけができている。				
	加工・穴あけ		電動糸鋸盤の適切な使用方法を理解している。				オリジナルのデザインを作品に取り入れることができる。
	3	仕上げ加工	3	仕上げに際して、やすり目に応じて適切なやすりを選択・使用している。	製図を確認して、必要な穴あけ作業を行うことができている。	安全に留意した機械(卓上盤ホルン盤)の使用ができている。	
検査・組み立て					木地によって適切なやすりを判断し行うことができている。	組み立て手順を理解し、手際よく組み立てを行う工夫をしている。	安全に留意して組み立て作業を行うことができている。
評価【300(3観点の合計÷3=100%)】				知(100%)	思(100%)	主(100%)	
評価方法				テスト 50%	テスト 50%	授業内活動 100%	
				授業内活動 50%	授業内活動 50%		

